

筆山

第32号／2002年7月

土佐中・高等学校同窓会 関東支部会報

編集人/西岡 恒憲 (41回)

〒251-0875 藤沢市本藤沢7-3-7 山中和正(24回)気付 事務局長 金澤由里(55回) TEL 0466-82-3244 FAX 0466-82-2445
E-mail: tosa-ko-kantoshi-bu@mail.ne.jp 関東支部ホームページ: <http://www2u.biglobe.ne.jp/~tsuruwa/kantosibu.htm>



平成14年度土佐中・高校入学式。池上新校長先生の初祝辞

母校土佐中・高校の
輝かしい未来に幸あれ！

28回生 川村 愿

昭和20年8月15日、ポツダム宣言受諾の玉音放送に耳を傾けて、日本国中が涙を流した日、敗戦の日、私どもは国民学校(小学校)の5年生でした。「英才教育」の土佐中学校が初めて女子にも門戸を開いてくださった時、打ちひしがれていた小学生は未来に希望を持つことが出来ました。

高知県野球連盟の会長をなさっておられた当時の校長大嶋光次先生をはじめとする諸先生方は文武両道の武として野球に力を入られました。

昭和28年、28回生が卒業した年の夏の甲子園で、後輩の29回生を中心とする土佐高校は準優勝。そのマナーの良さと、松山商業に惜敗した、素晴らしい戦いぶりに「優勝旗のない優勝校」と称えられました。新校長の池上武雄先生はその前のセンバツにエースとして出場されていました。この時の立派な戦いぶりや当時のチームの詳細は、28回生の文集「くろしお」第3集に書かせていただきました。一昨年、池上さんは当時の新聞記事などの記録をもとに、電話口で丁寧に解説してくださいました。

池上新校長のもと新たな気分で「文武両道」の実現をめざす土佐中・高校の発展を同窓の皆様とともに心からお祈りしたいと思います。

平成14年関東支部総会・大懇親会

平成14年度土佐中学・高等学校同窓会関東支部総会及び大懇親会は6月1日(土)オリンピック記念青少年総合センター「国際交流棟」に於いて開催されました。三〇〇名余の同窓生が代々木の森に参集し盛大に挙行されました。

西峯隆博先生、得竹耕司先生にお見え頂きました。

今年の記念講演はルイ・ヴィトン・ジャパン株式会社代表取締役の秦郷次郎氏(31回)の「ブランド話・9・9」と題する講演でした。



秦郷次郎氏



大懇親会

今年(22、32、42、52、62、72)の同窓諸氏による総会・懇親会の運営がなされました。

懇親会では、岩井千尋氏



池上新校長先生



宮地支部長による来賓のご紹介



今年の司会は42回生



MJGの見事な演奏が続く。右が岩井氏

(42回)のジャズバンド「MJG」の素晴らしい演奏を聞きました。またアトラクションとして『クイズ・土佐高物語』と題して大クイズ大会が行われ、会場全体を大いに沸かしました。



乾杯の音頭は古谷先生



壇上では今年卒業の新会員77回生が紹介された





クイズ大会優勝!



おんちゃん和77回生



新旧交歓?



2の回生から3の回生への幹事引継ぎ。来年はよろしく!



最後は校歌斉唱。冠する土佐の名に叶え。



関東支部活動報告

事務局長 金澤由里 (55 回生)



皆様こんにちは。新しく事務局長に就任した金澤です。

今回から事務局の住所が変更しました。新任の山中和正副幹事長のご自宅です。電話一本を同窓会専用につけていただき、会費入金チェックや住所変更連絡などの細かいお仕事を、「そんなに長くない期間」ということを条件として担当していただくことになりました。よろしく願います。

また、名簿担当は川上司先輩にやっていたことになりました。川上先輩は2の会のメンバーでもあり、総会準備会でも大活躍で、その事務処理能力の高さ・センスは、私にとって感動を味わえるものです。(うちのボス達のためのあかでも・・・) W杯開

幕も重なり、総会の前日、緊張のため(?)虫垂炎になってしまわれ、タイミングの良さに結構笑えました。

一方、事務局長の職が迷い込んできた私は、「総会の案内が例年より遅いのではないかな!」と西峯先生に怒られてシユンとし、原稿催促の西岡編集長には猫となってゴロニャンと甘え、会議での岩村顧問には大となってワンワン吠えておりました。それを見守る市川幹事長をヒヤヒヤさせ、笑顔の陰に短気を潜める鶴和副幹事長の逆鱗に触れてもシランプリし、宮地支部長のするどい質問に答えられなくてもへへへと笑い・・・しなやかに、ビューティフルマインドを持って、すり抜けていきたいと思います。

会費納入状況は、1月～5月で二〇三名の振込がありました。関東支部同窓生の皆様(学生は無料)、未納の方には振込用紙が入っていますので、郵便局より振込をよろしく願います。

新体制

支部長 宮地貴一 (21回)
幹事長 市川直介 (53回)
副幹事長 山中和正 (24回)

〈新任〉

副幹事長 佐々木泰子 (33回)
副幹事長 鶴和千秋 (41回)

〈新任〉

副幹事長 二宮 潔 (49回)
副幹事長 廣瀬裕子 (60回)

〈新任〉

会計 小松岳志 (70回)

〈新任〉

会計監査 吉井雄二 (49回)

会計監査 森木隆裕 (59回)

事務局 金澤由里 (55回)

〈新任〉

常任幹事 (名簿委員長) 川上 司 (52回)

〈新任〉

常任幹事 (筆山編集長) 西岡恒憲 (41回)

常任幹事 (HP編集長) 筒井康賢 (41回)

常任幹事 (総会責任者) 佐藤さと (57回)

顧問 北岡龍海 近藤久寿治

曾和純一 浅井伴泰 吉野保徳

溝淵真清

〈以下3名 新任〉

窪田秀忠 大石和男 岩村康生

母校だより

教頭 浜田俊充 (35回生)

5月に入っても不順な天候が続きましたが、ここ数日は

やっと晴れ間も見えてきました。関東支部の皆様には日頃から本校の教育のため何かとご支援を頂き心からお礼を申し上げます。

さて、この紙面でご挨拶もあるはずですが、森田校長がこの3月で辞任され、後任として元四国銀行専務の池上武雄先生 (28回) が就任されました。野球部の先輩でもあり、覇気溢れる方で、新しい視点からの発想もいただけるでしょうし、本校も益々活力のある学校になっていくと思います。着任早々に、東大・京大各現役2桁、また生徒は在校中に1回は甲子園で応援できるようにするとの決意表明がありました。文に武に学校としても全力を尽くしますのでご期待ください。

また、昨年度高校卒業式も終わって間もなく、進藤貞和大先輩の訃報に接しました。実に惜しい方をなくしました。心からお悔やみを申し上げます。しかしまた、旧職員の方谷俊夫先生の勲四等旭日小綬章の受章や、浅井和子さん (35回) のガーナ大使就任の朗報もあり、悲喜こももといいたところ です。

次に進学状況をはじめ、主

な学校行事などご報告いたします。本年度入試は、国公立一七四 (現一一四)、私立三九九 (現二一四) でした。合格率は72%で昨年度より若干減少しましたが、東京4 (現3)、京都12 (現9)、その他大阪、神戸等でも現役の健闘が目立ちました。特に国立医学部での現役の活躍 (26合格中現16) が目立ちました。また、ここ数年難関校への志望者が増加傾向にあり、新校長の掲げる東大・京大各現役2桁を達成できるよう努力していきます。

5月17日からの県体も水泳を除き終了しましたが、現在決定している全国総体出場は残念ながら団体で久しぶりの弓道部だけでした。県体での野球部は明徳に敗れ準優勝でしたが、明徳を破るのは土佐だと自負しています。夏には是非ともよい結果をだしたいと意欲的な練習に励んでいます。今年は「やさしい国体」が本県で開催されますが、補助員等に生徒も多数参加しなければならず、国体期間中 (夏季・秋季) は授業ができないため、2学期始業式は8月20日となり、また運動会も9月8日と変則的な行事予定

本部だより

となつてしまいました。
またこの2年ほど続きました高1修学旅行における東京でのコース別研修ですが、昨年度も皆様には多大なお世話になり感謝しています。この研修は生徒にも保護者にも非常に好評で、予期以上の成果を上げています。将来の進路や生き方を考えるうえでもよい経験をさせていただいていと思っています。今後も企画を充実させながらよりよいものに仕上げていきたいと考えていますので、より一層のご支援をお願いいたします。
なお、以前から皆様からもご指摘を頂いています。コンピュータ導入の件ですが、この夏休みに一応校内LANをたち上げる工事の予定をしています。近日中にご指摘の一部でしようがお応えできるようになると思います。

会長 池上武雄(28回生)
関東支部の皆様にはお元気で活躍の事と存じ心からお喜び申し上げます。
土佐中・高等学校同窓会もこの2月に新しい77回生同窓会員を迎え、同窓生も1万6千名を超える事となりました。し、関東、東海、関西、広島香川には支部があり、支部ごとの集まりや活動を通じて連携を深め、母校への協力、同窓会活動の活性化のためご協力を頂いております。
私は昨年8月、土佐中・高等学校同窓会総会で会長として、ご選任頂いた後、新しい本部役員の方々に三つの基本的な考えを披瀝しご協力をお願いしました。
一つは理事会直轄の委員会である百年委員会、TSL委員会を同窓会として全面的にサポートし、生徒が集まる魅力ある土佐高づくりに協力をしたと言ふことです。百年委員会は土佐高の百周年を意識した学校全体のあるべき姿
①20年後における土佐高の存在意義 ②教育方針 ③教育方法 ④運営方法 ⑤新校舎の建設等について改革の視点で検討をする会であり、TSL委員会は学校の先生方の

研修を企画・実施する委員会
で「他校見学」「生徒実態調査」等について検討が進められていると承知しています。
二つ目は財務の強化改善に取り組み同窓会をさらに活性化させたいと言ふことです。
限られた収入の中どうすれば良いのか智慧を出し合つてみたいと考えます。

三つ目は役員が積極的に意見を出し合い、仲良く、協力一致して運営にあたつて欲しいと言ふことです。
微力ではございますが、これらの実現に向け、本部役員と一丸となり努力を致したいと考えております。最後になりましたが全国津々浦々と活躍されている同窓諸兄姉と共に関東支部の皆様のご健勝とご発展をご祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

新役員体制
会長 28回生 池上武雄
副会長 32回生 溝渕真清
" 35回生 中橋一郎
" 39回生 森木房恵
" 40回生 横田整二
" 42回生 川崎康正
幹事長 39回生 安岡範悦
副幹事長 34回生 永野和宏
" 47回生 岡田容典
" 48回生 西山彰一

" 61回生 宮地貴嗣
会計 58回生 千頭裕
会計監査 32回生 森木将雄
" 40回生 田中章夫

東海支部だより

事務局長 南穀一(37回生)

関東支部の皆様、今日はこの筆山が発行されている頃には、サッカー台風も去り、改めてプロ野球熱が盛り上がりつつあると思われれます。わが「ドラゴンズ」はドウデスカネ。

サッカー台風に陸の1週間前、5月25日(土)に東海支部の総会を昨年と同様、ホテルキャッスルプラザにて開催しました。なんでも、ワールドカップサッカーをこの名古屋でやらんガデー、とか言いながら総勢34名参集した。

貴支部より吉井雄二会計監査役及び金澤事務局長にご出席いただき感謝しております。吉井様からはドウシテ阪神タイガースが強いのか、自ら勤務するサンケイスポーツの宣伝をチクチクと入れながらご挨拶いただき、又紅一点金澤女史からは新事務局長になった抱負を語っていただいた。写真はその時のモノである。

尚 金澤女史は中部高知県人会の佐田顧問のお嬢さんということで佐田氏と親交のある面々がソウカソウカ、似トル似トルで話がはずんだ。



又今回来賓として中部高知県人会会長の中岡寛氏にもお越しいただき、その古武士然とした風体から「頑張れ土佐高!!」のエールをいただいた。いつまでもM徳義塾に甲子園へ行かれてはドモナランとのことである。ごモットモ、ごモットモで閉会した。

参加者全員がマイクの前で一言以上しゃべって延々3時間の総会は終わった。お土産に19回窪田善一先生からの「小夏をいただいたて帰った。ウマカタ...」。

関西支部だより

支部長 川崎美奈子(42回生)
関西支部では平成14年1月18日に支部の幹事会を阪急

ランドビルの土佐料理「司」で開催致しました。おしまれながら、支部長の永野元玄氏が今期で勇退を表明。関西支部の建て直しに貢献されたこの4年間を振り返りながら、全員で酒杯を傾けました。

そうして3月23日、リッツカールトンホテルでの関西支部総会では、突然の土佐中高池上校長の就任が報告されるとともに、関西支部長には私川崎美栄子が承認されました。数期前の支部長、北村旦先生の阪大での不肖の弟子でありますが、まことに微力ながら、「これからは女性の時代」という永野先輩の声に押されてがんばりたいと思います。

総会はなごやかに、恒例のよさこい鳴子踊りも今年は手際よく、映画「およう」の宣伝に、関本幹事のゆかりの関本郁夫監督みずからが、主題曲の歌手ともども訪れて、しばし夢2の世界に酔ったという次第であります。

月変わって4月23日、反省の幹事会が同じく「司」で行われ、平成15年の総会は幹事長が最近赴任された神戸ホテル・オークラにて1月最終土曜日に行うということ、長年、事務局として多大なご負

担をおかけした中山真智子さんの、経理部分のみを切り離し32回山下成子さんにご協力願うこと、各地の総会への派遣者を決めて、有意義に閉会いたしました。

広島支部だより

事務局長 山崎通子(40回生)

広島支部では、今年の支部総会を10月26日(土)に開催し、翌27日(日)有志で江田島の旧海軍兵学校を見学する予定をたてています。今回はその江田島をはじめ呉、宮島の御紹介をしましょう。

呉には今も海軍関係の建物その他が残されています。旧海軍鎮守府は海上自衛隊となり、長官宿舎は入船山記念館と名前を変えています。海軍墓地は佐世保より規模は小さいのですが軍艦「大和」を始め多くの艦船のお墓や慰霊碑があります。

現在は「空も港も」と歌われた宇品港からも江田島行きのフェリーがでていますが、昔は呉から江田島の小用まで船で行くコースが普通だったようです。小用で船を下り、小さな峠を越えると旧海軍兵

学校の通用門が見えてきます。門をはいると卒業式の行われた大講堂や生徒館、教育参考館などが見えて来ます。目の前に広がっている海は江田内で、ここでカッター訓練、遠泳などいろいろな訓練が行われていたそうです。卒業式は華麗な式典で、式のあとは江田内に練習艦「鹿島」、「香取」が待っていて、卒業生が乗り込み、在校生はカッターで後を追ひ、最後は權を立て「帽振れ!」。

生徒館の中は一般の見学者は立ち入り禁止ですが、見学者も入れる教育参考館には明治時代からの資料が展示されています。中でも東郷元帥の遺髪室のドアは、日本海海戦のレリーフがほどこされていて立派なものです。戦争末期には鹿兒島に隠されていたとか。一番多い展示は第二次大戦で戦死された方々の遺品の数々で、見ていると涙がこぼれてきます。

兵学校の裏には古鷹山がまるで鷹が羽根を拡げ、兵学校を抱きかかえる様に聳えたっています。この山には訓練で走って登ったり、休日に登ったり兵学校生徒には思い出深い所だそうです。

宮島は、平清盛や毛利元就ゆかりの地で世界遺産の厳島神社は何時見ても素晴らしく、特に「平家納経」には魅せられてしまいます。宮島には弥山という山があるのですが、この山には兵学校生徒は毎年江田島からカッターでやってきて、山登り(走って登る)を競ったそうです。私も登ったことがあります。私も登るとはトンデモナイというのが実感です。

弥山登山の出发点「紅葉谷」は紅葉の名所で今年の10月27日頃、見頃だといのですが、紅葉の季節の広島にてお待ちしております。

香川支部だより

事務局 野村喜久(54回生)

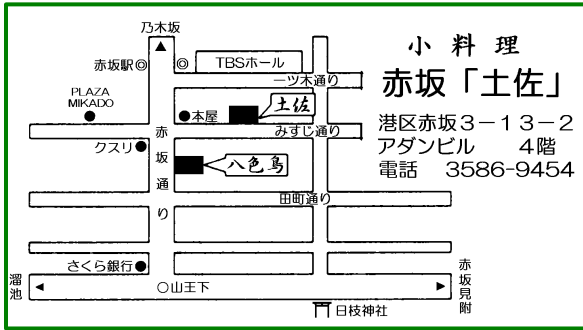
関東支部の皆さん!こんにちは。香川支部の事務局をさせていたいております54回生の野村と申します。讃岐高松から香川支部の近況をご紹介します。

香川支部では7月の第1土曜日を総会日と決めています。昨年も7月7日にJR高松駅前のホテルニューフロンティアで開催致しました。香川支

部の総会は「畳に座ってじつくり、とことんやる」のが恒例です。当日は、貴支部の鶴和千秋前事務局長をはじめ、母校ならびに同窓会本部や他支部からも多くの皆様に御臨席を賜り、誠にありがとうございました。おかげさまで、盛大な総会を開催することができ、事務局としてもほっと胸をなで下ろしているところです。

個人的にうれしかったのは、日頃からお世話になっていた鶴和先輩と高松で再会できたこと。鶴和先輩には、私が事務局となった折りに支部運営や名簿管理等いろいろな面で相談にのって頂き、非常に感謝しております。今回事務局長を退任されたと聞き、とても残念でなりません。これからも香川支部をよろしくお願いいたします。

さて、香川支部では今年度の支部行事や運営等を相談するため、2月に支部役員会をワシントンホテルで開催しました。現在の香川支部の悩みの種は、転勤族が多く異動が激しいことと、新人が増えないことです。従って、支部役員の交替も比較的多いのが実情です。今年も転勤に伴い若



干メンバーが入れ替わりましてのでご紹介します。

支部長 土田哲也 (32回)

幹事長 宮地正隆 (36回)

幹事 谷 隆 (38回)

中澤正良 (38回)

熊野貴磨 (40回)

秋野友康 (44回)

田田昭夫 (56回)

藤井 満 (46回)

会計監査 武山正人 (40回)

事務局長 武山正人 (40回)

最後にりましたが、関東支部の皆様の後援益々のご発展とご健勝をお祈り申し上げ、香川支部からの近況報告とさせていただきます。

着任前の忙しい中、1時間ほど顔を会わせた浅井さんに出席者からは「土佐高初めての大仕事です。ハチキン精神で大いに頑張ってください」と激励の声が飛びかった。

浅井さんは結婚後、独学で司法試験に挑戦、合格後は涉外弁護士として活躍してきた。この豊富な経験と堪能な語学力を買われて、今回外務省の民間人大使に登用された。

今春土佐高を卒業したばかりの原昌平君(77回・慶応大)ら大学生7人も飛び入り参加。茶髪にピアスの今風の若者と記念撮影におさまりながら「やっぱり若い人はえいちゃ」

一木会

た。までもにぎやかだった。(41回・岩村康生)

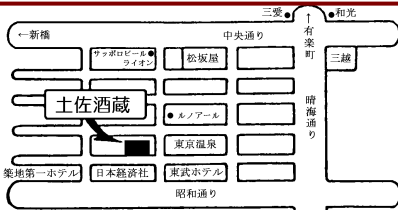


「一木会」が6月6日、銀座の土佐酒蔵で開かれた。今回は浅井和子さん(35回)のガール大使就任という朗報もあった。いつもより多くの同窓が出席、皿鉢料理を囲んで美酒に酔った。

座の土佐酒蔵で開かれた。今回は浅井和子さん(35回)のガール大使就任という朗報もあった。いつもより多くの同窓が出席、皿鉢料理を囲んで美酒に酔った。

「先輩を目標に頑張ろう」の周囲の声にやや緊張気味。宴高まれば「来年はガーナツアーを組もう」というハ酔うたんぼの声も出て、都会の中の土佐はいった。

と浅井さん、得意の土佐弁が飛び出した。



季節のふるさと風味
土佐酒蔵

銀座7-12-4 友野本社ビルB1
電3545-3855 銀座第一ホテル通り

三根先生のお墓へ

関東支部総会の翌日、平成14年6月2日、初夏のまぶしい日差しを受けながら、多磨墓地の鬱蒼たる新緑の中を、池上校長先生と宮地支部長以下関東支部の有志数人で、土佐中学初代校長三根圓次郎先生のお墓参りに行ってまいりました。

新校長の「歴代校長先生の

という素志を知り、関東の同窓生がご案内しました。



池上先生は三根先生の墓前に合掌し、新たな決意とともに土佐中・高校の将来の更なる発展をお願いされたこととお墓を一度はお参りしたい」と

と思います。(編集部記)



一年生校長発進

学校長

池上武雄（28回生）



（理事）でした。

皆さん今日は。私は28回生の池上武雄です。

この度図らずも我が母校の校長を拝命することとなりました。どうかよろしくお願いいたします。

皆さんもさぞ驚かれたことと思いますが、実は私の方がもっと驚いています。「校長をやれ」というお話を頂戴しました時、「浅学非才の私かなんで」と驚きとともにただ戸惑うばかりでした。しかし宇田耕也理事長から熱心な招請のお話をうかがうほどに、

「今こそ報恩感謝の土佐高精神を実践しなくては」という気持ちが高揚して参りました。根が単純思考の私でございますので、流れに掉さすすもなく、誰にも相談せずに覚悟を決め有難くお受けいたしました。時に、平成14年2月14日の午後、場所は四国銀行本店役員応接室で、同席者は森田校長先生、四国銀行濱田耕一会長（当時

理事）でした。それからの流れは「気呵成正式拜命日は4月1日ということでしたので、森田校長先生からの引継ぎやら、佐藤事務長さんからのレクチャーなど、あつという間の1ヵ月半が過ぎて4月1日を迎えました。この間に、プレス発表を3月4日に行いました。高知新聞社とテレビ高知の取材を受けました。高知新聞社会部記者は、本校70回生の太野泰士君で、私が思いつくまにしゃべりしたことを上手に纏めて下さいました。

「母校に恩返し 池上校長の話」

「突然の要請で驚いたが、母校に恩返しをする気持ちで、愛情を持って子どもの資質を磨き、自立精神の強い生徒を育てていきたい。教育界での経験はないが、礼節を尊び、文武両道を目指す伝統を引き継ぎ、活力のある学校づくりに全力投球する。」

プレス発表後、大変有難いことに全国の同窓生から沢山の激励のメールやお手紙を頂戴いたしました。心温まる激励のお言葉は、「おめでどうというよりは」苦勞様。まずは甲子園出場を。そして多く

の英才を輩出して土佐高の輝かしい伝統を守れ。」というものでした。諸先輩の土佐高にかける期待の大きさをひしひしと感じました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

4月5日、27回生の有志の皆さんが卒業50周年ということで母校を訪ねて下さいました。校内を見て回られ、蒲鉾校舎（と申ししましても想像もつかない方が大半とは思いますが）の昔を想い出して、大いに懐かしがっていただきましたし、そろって在校時の校長、大嶋光次校長の胸像の前で記念写真も取られました。

またその上に思いがけず母校の為にと多額のお志までも頂戴いたしました。唯々感激のほかにございせんでした。その時に考えましたことは、この事が先例となり、全国にいいの同窓生が卒業50周年にはぜひ母校をお訪ねいただきたいし、教職員一同もこぞって歓迎申しあげたいものだということです。併せて母校に対する温かいご支援を賜ることが慣例となるなら、百周年を期して校舎の改築や、諸設備の整備の為の準備を進めてゆ

く大きな力となるものと誠に厚かましいお願いとは思いますが、大いに期待申しあげておるところでございます。

4月9日、入学式を皮切りに新学期がスタートしました。校長として最初の仕事は、午前高校、午後中学に分かれての入学式での校長式辞でした。数週間前からこの事が気になってしょうがなく、眠りも浅い有様でしたが、新入学生の皆さんには、「学問を重んじ、

礼節をたつとび、スポーツを愛する学生生活を送らしめる。」という本校の教育方針を敷衍し、「真の文武両道」ならびに「報恩感謝」の実現に、生徒、教職員、保護者の全員が心を一つにして努力邁進することをご場で誓い合おうではありませんかと呼びかけました。そして翌日の始業式では、在校生の皆さんにもこの誓い合ったことを話して、全校あげて志を高く努力すれば必ずや成果は期すべきものがあると信ずる旨を述べ、希望を膨らまし

た次第です。

全てが初めての体験であり、てんやわんやのスタートとはなりましたが、皆様のご期待に必ずお応えしたいとの心意気だけは盛んでございます。どうか今後ともご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様様のますますのご健勝、ご活躍をお祈りしてご挨拶いたします。



第5回選抜高専学校野球大会 甲子園出場

昭和27年春、甲子園にて。前列左から3人目が筆者

F1と無線と

岡上 功(40回生)

高知で生まれ東京で学び、好きなアマチュア無線の開発をやるべくケンウッド(当時はトリオ)に入社。高知が好きで一旦会社を辞めたもののオイルショックで仕事がなく、土方をしていましたら縁あり再度ケンウッドに採用され76年からUSAに駐在。以来英語圏3カ国で18年技術関係の仕事をしていました。

99年に帰国。ところが世は不景気。この私も歳には勝てず数年前早期退職制度が適用されました。高知大好き人間である私は長年の夢であったアマチュア無線を楽しむべく、



デビッドが鈴鹿で世界2位になった瞬間

高知の田舎に土地を見付け、新居とアンテナ用鉄塔建設の準備をしていました。

ところがある夜一通の電話。それはケンウッドがテクノロジーパートナーとして91年来無線機を供給しているマクラレンのオフィスに常駐しないかという話でした。仕事の内容はフォーミュラワン(F1)のレースに参加し無線機のメンテナンスと技術サポートを行うこと。そして新規無線機開発の日本との窓口としてレース間のテストに参加する話でした。ケンウッドの無線機が91年にオーストラリアで初めてF1に使用された時、ちょうど現地駐在の私が技術応援したのなにかの縁かもしれません。この時のドライバーはセナとベルガーで、セナの甘いマスクと貴公子のようなイメージ、仕事が終わって、ご

苦労さんと私の肩をポンとたたいていったセナのことは今でも忘れがたい想い出です。それで一晩考え、履歴書に箔がつく、面白そうだと思いき快く請け合い、二〇〇〇年の初めにイギリスのマクラーレ

ンの工場近くに妻と二人で移り住みました。この仕事は今年で2年目になります。01年はサーキットも仕事のルールに關しても全く予備知識がなく、人に言えない辛い思いもしましたが、全レースと6回



さるところにてテスト中のスナップ(筆者)

モータースポーツの人気は高く、その中でも最高峰であるF1の人気は、日本人には信じられないくらいです。マクラレンはそのF1の世界の名門チームです。98、99年とミカハッキネンがワールドチャンピオンになっています。

工場はアパートから車で5分。こんなに近いところを選んだのは正解でした。後で述べますがこのF1の世界は24時間仕事だといってもいいくらい忙しく、神経と体力を使います。

F1の試合数、開催国

F1の試合は現在年間17戦です。最初の試合は3月にオーストラリアで始まります。それからマレーシア、ブラジル、サンマリノ、スペイン、オーストリア、モナコ、カナダ、ヨーロッパ、イギリス、フランス、ドイツ、ハンガリー、ベルギー、イタリア、USAと続き、10月の日本の鈴鹿が最終戦となります。試合の間もテストがあり、多い月には4回、年間約30回、主にイギリスまたはスペインで行われています。

無線機

ドライバーは勿論ですがエンジニア、メカニックをはじ



ブラジルGP2001にて。このトラック内に無線室がある

め、大事な御客様をサポートするマーケティング、また現場でお料理を担当する部門もケンウッドの無線機を使用しています。特殊な無線機を含み数は全部で約一六〇台。毎年使用数は増えています。またマクラレン以外にも6チームがケンウッドの無線機を使用しています。こんなに多くのチームが使っている理由は、過去セナを擁して連戦連勝だった頃、ケンウッドの無線機を使えば勝てるという神話が生まれたからだそうです。

F1のスケジュール例

ヨーロッパ内のレースの場合大体5日から6日間の仕事です。

水曜日

早朝(朝5時とか)にファクトリーを53人乗りバスでお

今こんなことしています

22



練習では、タイヤ、ノーズ交換、

ブラジルGP2001にて。マクラーレンの私の同僚ウェイン

揃いのユニフォームで出発。空港からメカニック運転の車でサーキットに直行すると、駐車場で作業者に着替える。機材積み下ろし、無線室設置

アンテナの mast 設置、アンテナ取り付け、ケーブル引きまわしといった作業をします。

◇木曜日

8時にホテル出発。周波数設定、充電、通信テスト、ヘルメットの無線チェック等この日行われるピットストップ練習と金曜日から始まる練習走行に備える。無線機の数が多いので水曜日に飛行機が遅れたりした場合、この日は早朝から秒刻みの作業になり昼飯抜きでピットストップの練習時間に間に合わせなければならぬ。ピットストップ練習では、タイヤ、ノーズ交換、

燃料補給の練習を主に、ピットストップウォッチ片手にピットオフィスの指揮官が無線で指示、かかった時間を計ります。

◇金曜日

7時半にホテルを出発。11時〜12時と13時〜14時の2回練習走行がある。このときドライバートとエンジニア間の通信を測定機でモニターしながら異常があるかどうか検知する。異常がある場合、マクラーレンのスタッフと協議、対策。たまに無免許で周波数を使用する者があり、その場合はオフィサーに除去してもらいます。

◇土曜日

6時半にホテル出発。この日は9時〜9時45分に練習走行があるのでスピードに作業する必要があります。そのあと10時15分〜11時に練習走行。このあとの13時〜14時のクオリファイイング（予選）でポールポジションが決まります。

以上4日間の作業終了時間はメカニック担当の車が完成し次第、時には午前2時になったりすることがあり、翌朝が早い場合、着替えもせずベッドに飛びこんだこともありま

す。メカニックのグループ（各ドライバートとテストカーの3グループ）担当によって



ブラジルGP2001の美女

を無線で伝えてきます。そのあとマクラーレンの女性がスタッフ全員にシャンペーンを配ってくれます。開催国によってはこの日英国に帰る場合もあり、そのときはレースの開始直後から機材片付けにとりかかります。

無線の使用例

この世界は極秘事項が多くあまり話せませんが、最大時速三〇〇キロメートル以上でコンマ数秒のスピードを争う世界ですから、指揮官の無線がドライバートに正確に伝達されなかったらどうなるか。絶対に勝てません。サーキットに出ると指揮官は、そのドライバートに他チームの車との位置関係を秒で教え、ドライバートが頭の中に自分の車の位置関係を描けるようになります。また練習走行中は作戦によって相手に抜かせるなどか抜かせるとか、ピットインの指示やその他重要な事項を伝え、貴重なデータを収集します。またレッドフラッグとかイエローフラッグも知らせます。

6時半にホテル出発。9時半〜10時にウォームアップ走行。ドライバートと指揮官の無線交信が多いのはこのウォームアップまでで、レースになると交信数はぐっと減ります。でも最後まで何が起きるか予想できないので息が抜けません。レースは普通2時からはいまり約三〇〇キロメートルの距離に相当するラップ数を走ります。

もし優勝した場合早ドライバートがスタッフ全員に感謝の言葉

かで無線を聞いています。もしレース中ピットインの指示の無線を何らかの原因でドライバートが聞き落したらもう上位入賞は不可能です。ですから無線機の信頼性を上げるべくサーキット場は勿論、工場でも作業にはすごく神経を使わされます。

F1ドライバートの心臓、能力、ポールポジションからスタートするまでの無線のカウントダウンを聞く時とスタート時が一番緊張します。怪我なく無事スタートできるように祈っています。これまでスタート時点で何回か大きな事故がありましたが、そんなとき指揮官からの大丈夫か？という問いかけにもドライバートは落ちついたもので、心臓がドキドキ



マレーシアGP2001にて。パドックの夜景

今こんなことしています

22

している私なんかとは次元が違ふようです。まったく冷静で、一体どうなっているんだと思います。気分転換も早いしスーパースターとしか言い様がない。またステアリングについて沢山のスイッチ類の動作をその場でエンジニアから教えられていることもある。よく高速で今聞いたばかりのスイッチ類をコントロールできるものだと思嘆させられます。

マクラレーンスタッフ

この世界に入つてすぐスタッフの優秀さに感心させられました。緊急時の即座の判断力、行動のスピード、言い訳をしない、論理的な考えかた、他人の作業にトラブルがあるなと感じるとその場でさつと助けてすぐ自分の持ち場に戻る。まったく背中にも目を持っていくかのようです。そして上の人間ほど良く働く。そのかわりスタッフが繰り返して何か失敗をやるとうすぐ処置されます。もうレースには戻れません。きびしい世界です。過去各国で現地のレベルに悩まされた自分としては信じられなかった。こんな社員がいたらなあ、とうらやましかったですね。でも考えれば当た

り前で、どんな世界でもその世界でナンバーワンになるためには普通ではだめなのですね。それで、皆秀才みたいな感じかというところではなく、ひょうきんでまるで「コチカメ」みたいなメカニックもいます。皆車が好きでこの世界に入ったようで、どの国でも運転時すごいスピードを出しますが、すぐ上手で車の中で安心して寝ていられます。マクラレーンの美意識

オーナーであるロン デニ

スの意向だと思ふのですが、あらゆるものに美を要求されます。工場内はしかり。細部は省略しますが外から見えない無線機の内部にも美しさが要求される。配線作業にも気が抜けません。

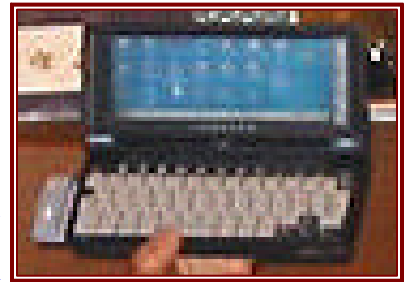
最後に

この仕事もきつく、来年はどうなるか不明ですが、是非この仕事を続けるよう励ましてくれた土佐高のN先輩、出張中は私の身に何かあるといけなからと、どこへも出かせずアパートで待機してくれている妻に感謝したい。そしてマクラレーンで働く期間は短くともマクラレーンのスタッフの記憶に残るようないい仕事をしたいと考えています。

私のお気に入り

モバイルパソコン Jornada710 (米・Hp社)

岩村康生(41回)



41回の同期生でつくる「4141ネット」(酔い酔い?)というメーリングリストに加わって一年半になる。会員60数名のパソコン版井戸端会議のようなもので、日常から時局の話題まで硬軟多岐にわたる。リード役は「三賢人」と呼ばれる杉本隆雄、山崎郁太郎、筒井康賢の三君。盛り上げ役は安芸在住の近藤雅彦君だ。

東京では、仕事そっちのけで「筆山」編集に精出す西岡恒憲、よく喋りよく動く鶴和千秋、エジプトぼけの佐竹真一、ネアカの三宅ヨシノリ、大崎のKOボーイ横原温幸、雑学王の荻田明彦、経済学者の森崎初男君など。北は仙台の奥田邦明、和歌山の木綿良介、大阪の鎌田振吉、広島の新田道子、長崎の吉本雅昭君らが常連で毎日かしましい。高知では田口保雄、千頭邦夫君ら。北京の内海暁君からはタイムリーな映像レポートが届く。ニューヨークの久武たかさんからは、危うく同時多発テロの難を逃れた緊急報が届いた。また、近頃は豊橋の高橋佐代子さんら女性3人が一挙入会。



近藤 岩村 杉本
(本年5月、安芸でのジョナサン会)

毎日これら30通前後のメールを読んでいると、出張などで読めないと急に寂しくなる。そこで杉本君推薦のJornada710という超小型のパソコンを買った。500gという軽さで持ち運びは楽。どこにいてもメールもインターネットも可能。文章も書けるし画像も見られる。おまけに音楽も聞けて録音もオーケーと万能の上、バッテリーは10時間もつ。広辞苑一冊分の辞書もいれた。鉄道検索も自在。旅先で出張報告書は出来上がるし、便利この上ない優れものなのである。

去年夏にはJornada愛好の同期生有志で「ジョナサン会」という会も結成した。おかげで老眼がすすむ一方だが、私にとってお気に入りといえば実は、このJornadaにもまして同期の仲間との”おしゃべり”そのものなのかも知れない。



身の回りのものを片付けていたら、古びた写真アルバムが出てきた。「昭和二十一年（一九四六年）秋、土佐中学にて」と記されたページがある。これを眺めていたら、私の頭の中は太平洋戦争末期へとフラッシュバックして行く。太平洋戦争が終わった昭和二十一年、私は三年生であった。7月4日未明の高知市大空襲で母校は灰燼に帰し、瓦礫の山となった。8月15日に終戦の詔勅を校庭で聞いたが、聞きなれない言葉が多く難解であった。9月に入るとすぐ授

業が再開された。校舎がないので取り敢えず海南南中学（現小津高校）の教室を借りた。年が明けると大津国民学校へ移った。上級生や下級生も、それぞれ城東中学や尾川国民学校、山田国民学校に寄寓した。

昭和二十一年、仁井田の海軍航空隊の建物の払い下げがあり、焼校舎の跡地に移築することが決まった。そして、これに必要な資金の寄付募集も全校生徒教職員が一致して当てることになった。私達も数人でグループを組み、募金を行った。募金といっても、体のいい門付けである。汗を拭き拭き街を歩き、一軒づつ趣旨を説いて回ったが、生活の苦しい時代に募金に応じてくれる家はまれであった。私は最上級生でグループのリーダーだったので、門付けの組長格であったが、いやでいやでたまらなかった。

解体した海軍航空隊の建物の建材・瓦は生徒の手で潮江へ運んだ。浦戸湾上は機船で、陸上は払い下げの鉄製の荷車で・つまり、少年たちの人力で運搬したのである。26回の山崎和孝君はこの間の感想を同窓会本部会報「向陽」の



16歳当時の筆者

スマートな
二十四回生 山中和正
いごっそう

思い出 そは麗し

創刊号に『楽しかった』と書かれているが、私には炎天下の棧橋通りをバランスの悪い重い荷車を引いて走ったというつらい思い出だけしか出て

こない。

こうして出来上がったのがこの写真の校舎である。それでも一枚一枚がその校舎の玄関前で当時の教職員を撮った写真である。先生方も多くは他界され、健在な方は数えるほどしかない。私が確認した限りでは、松浦（在高知）、

鎮西（在船橋）、目代（在高知）のお三方だけである。バラックの新校舎は、窓ガラスがなく、ガラス代わりに張った紙もすぐ破れて寒い北風を防ぎきれなかった。天井と床はなく、風と埃は教室を通して吹きぬけた。勿論、冷房も暖房もない。住み心地の悪い校舎なのに、今こうして写真を眺めていると、思い出がどんどん美しく、麗しくなっていく。

まさに、「思い出 そは麗し」である。筆者注：「思い出 そは麗し（旧仮名遣い）」は、高知高校寮歌（昭和6年、暮南歌）の冒頭の一節

写真の説明（敬称略）後列左から 中山駿馬（オンカン・生物）、河野伴香（地歴）、山本直四郎（物化）、安岡一郎（英語）。中列左から 西野友彦（トモチヤン・国語）、

谷熊彦（惣子）目代善市（物理）、大島光次（校長）、国見米太郎（ヘンポ・教頭）、吉本要（カマ・数学）。



いごっそうの一言

終戦直後、土佐中学はほとんどつぶれかけていた。学制改革だけでなく、経済的にも行き詰っていた。これを救ったのは大島光次校長（当時）である。いち早い授業再開、資金の募金、校舎の復興、男女共学、定員の増加と矢継ぎ早に施策を打ち出し、土佐中学を廃校から救った。大島校長は私生活をなげうって再建に献身し、昭和33年4月、病のため帰らぬ人となられた。NHKの「プロジェクトX」で紹介されてもおかしくない壮挙であった。

前列左から 松浦勲（英語）、尾崎広吉（英語）、富田俊夫（国漢）、富田管治（書記）、西忠行（図工）。

向陽新聞

中城正堯(30回生)

4月19日に東京・新宿の住友三井ビル52階「加寿翁」で、土佐高新聞部出身者とマスコミ関係者による「向陽プレスクラブ」が、ひさしぶりに開かれた。永森裕子(44回)、藤宗俊(42回)の呼びかけで20人集まる予定が、当日飛び入りが続出して25名となり、大盛況となった。

まず、最古参の細木大麓(27回)が立ち、昭和24年の新聞部設立の思い出を中心にこう挨拶した。「当時高1の山崎和孝、山村泰造(26回)さんたちと、中3の岩谷清水、岡林幹雄、私などがそれぞれ準備していたのを一緒にして発



平成14年の再開第1回会合。東京・新宿「加寿翁」で

復活めざし

東京で新聞部OB会を再開!!

足した。自治会とともに、学
国民主化の先頭に立つ意気込
みであった。昭和24年3月に
は、創刊号を発行した。以来
最も熱心に編集と後輩指導に
当たってくれたのが、先年亡
くなった岩谷だった。おかげ
で『向陽新聞』は、全国的に
も注目される高校新聞になり
0Bからはマスコミ人も育つ
た。ところが聞くところによ
ると、現在母校新聞部に顧問
はいが部員はいないとのこと
と。この会を、ぜひ土佐高活
性化と新聞部復活につなげた
い。では、乾杯！」

続いてしばらく懇談となっ
たが、ここで世話人が用意し
た『向陽新聞』のバックナン
バーが回覧された。創刊号は
『新聞向陽』で、一面トップ
は大嶋光次校長の「創刊に際
して」だが、続く記事に救
い難い敗戦気分とあるのが
時代を示している。論説は細
木大麓、「プロ野球展望」は
山村泰造、「何故生きるか」
をテーマのエッセイは中2の
酒井芳美という充実ぶり。安
部弥太郎(28回)と中山剛吉
(29回)は、「新聞部で、何を
したか記憶にない」とのこと
だったが、当時の新聞にはそ



前列左から2人目筆者

れぞれ編集兼発行人として名
前が記されており、ひと安心。
浅井伴泰(30回)は、昭和28年
春の選抜に特派記者として甲
子園取材をした記事「センバ
ツ野球裏話」を発見。早実を
破った野球部の活躍と若き
日のわがメイ文に感動の面持
ちであった。岡林敏真、杉本
健一郎、濱崎洗一、堀内稔久
の32回組は、中学入試問題漏
洩事件で学校追及の論議を張っ
ただけに「同盟休校解決す」
(昭和30年7月発行)を懐か
しげに見入っていた。

卒業生から近況報告となった
が、中井興一(45回)が最若年
で、後が途絶えているのが何
より残念だった。ただ、この
日出席の女性はいずれも「さ
すが新聞部」という活躍をし
ており、永森裕子(44回)は婦
国子女のために国際児童文庫
協会の運営を、山川令子(36
回)は子育て支援の情報誌を
編集しながら埼玉県議への出
馬準備を、丸山智子(35回)は
新聞記者の経験を生かして医
療情報の執筆活動を、活発に
行なっている。

出席者でマスコミ関係は、
岩村康生(41回・同学社)、秦
洋一(34回・朝日新聞)、丸山
智子(35回・産経新聞)、岡林
敏真(32回・学研)、中城正堯
(30回・くもん出版)、安部弥
太郎(28回・NHK)だが、欠
席組にも34回の国見昭郎(N
HK)、吉川順三(毎日新聞)
など、大活躍した人材が多い。
ただ、ほとんどがすでに現役
を退いている。

出席者には自由業的な者も
多く、弁護士(笹岡峰夫、堀
内裕久)、司法書士(鶴和千秋)、
医師(市原真仁)、建築家(藤
宗俊一)、ビジネスコンサル
タント(公文敏雄)など多士



昭和32年の第1回「向陽プレスクラブ」。東京・神田ヒルトップホテルで

進藤大先輩を偲んで



佐々木泰子 (33回生)

さる2月22日、91歳で逝去された進藤員和先輩(3回生・元三菱電機会長)の「お別れ会」が4月3日ホテル・ニューオータニで行われました。「至誠」を座右の銘とされた温かいお人柄を偲び、各界の関係者約千三百人が参列し別れを惜しまました。

土佐校の同窓生として、進藤先輩には本当にお世話になりました。阪神大震災支援のためダーク・ダックスのチャリティコンサートを行った私を全面的に応援して下さいました。時のご恩は忘れられません。又お互い歌が大好き、ということもあり、大変親しくして頂きました。時にはお食事を馳走になり、また時にはカラオケやコンサートを一緒に

したことなく、数々の思い出はつきません。

お誕生日は3月4日で、(この日は私の誕生日でもあります)が、今年もお好きなお花などを持ってお訪ねしようと思っていた矢先の訃報でした。会場には私が描いた(90歳の時の)肖像画が飾られており、その優しいお顔からは「がんばりなさいや」「へこたれたらいかんよ」の声が聞こえるようでした。

いつも父親のようにご指導下さった大先輩、本当にありがとうございました。心からご冥福をお祈り申し上げます。



泉谷良彦 (29回生)

(日三三菱相談役)



会場に、揮毫・著書・遺品等が並べられて

進藤先輩御逝去の報に接し、心から哀悼の意を捧げます。

進藤さんは、土佐中学の先輩として我々後輩を御指導戴き、心から感謝申し上げます。

経済界におかれましては、国内外で活躍され、重電機の雄であった三菱電機の中にあって、苦手であった家庭電化用品まで、積極的に手をつけられ、「ふとん乾燥器」等、次々とヒット商品を生み出し、家電の三菱と言われるほど会社の意識改革を推進されました。

事業の拡大に伴い資金調達のためドイツ銀行を往訪して相手の頭取はじめ役員の前で「菩提樹」をドイツ語で歌い上げ、融資を一発で取り付け

たことは伝説となっています。特筆すべきは、郷土愛から経済基盤の弱い高知県に新鋭のIC工場を作られたことだと思えます。郷党の偉人岩崎弥太郎は、三菱グループを創立しましたが、生家しか残しませんでした。進藤さんは、世界に発信する情報産業の最先端事業を我々に残されたのです。

進藤さんの前述のドイツ・リートをはじめ堂々とした歌声は、皆様も認めるところであり、今も心に響きます。83歳でCD「歌えば青春」を発表され、世界最盛期のデビューと称えられました。

数々のお教を胸に、我々後輩は日々精進して、高い理想に向かって邁進することをお誓いして、哀悼の言葉と致します。合掌

お悔やみ申し上げます

進藤員和 (3回) 02・2・22
玉真武雄 (7回) 01・4
原田龍雄 (7回) 00
岡林龍之 (17回) 02・4・7
秋澤横二 (31回) 02・3・2
山脇敏弘 (33回) 02・1・31
野口哲之介 (36回) 02・1・10

[母校及び同窓会本部・各支部一覧表]

土佐中学・高等学校／土佐中学・高等学校同窓会本部 会計幹事 千頭裕 〒780-8014 高知市塩屋崎町1-1-10
(TEL)088-833-4394(FAX)088-833-7373(E-mail)tosako@mb.inforyoma.or.jp(HP)http://www.inforyoma.or.jp/tosaobog/
土佐中学・高等学校同窓会香川支部 事務局長 武山正人(担当:野村喜久) 〒760-8573 香川県高松市丸の内2-5四国電力(株)
(TEL)087-821-5061(FAX)087-826-1074(E-mail)nomura11741@yonden.co.jp
土佐中学・高等学校同窓会広島支部 事務局長 山崎迪子 〒732-0062 広島市東区牛田早稲田1-24-7-210
(TEL)082-227-2656(FAX)082-732-0062(E-mail)myamazaki@do2.enjoy.ne.jp(HP)
土佐中学・高等学校同窓会関西支部 事務局長 中山真知子 〒590-0006 大阪府岸和田市春木若松町5-7
(TEL)0724-44-5278(FAX)0724-40-3378(E-mail)nakayama@hotmail.com(HP)http://www.tosa-ko.org/kansai/
土佐中学・高等学校同窓会東海支部 事務局長 南 毅一 〒460-0024 名古屋市中区正木3-13-13ビル新金山1階
(TEL)052-332-3370(FAX)052-332-3372(E-mail)knz@mta.biglobe.ne.jp(HP)http://www.sun-net.or.jp/~bunmura/



第10回を迎えたはちきん会は、5月9日、32回瀧瀬真清氏（「写真下」）をナイトに岩崎家の別荘であった由緒ある「開東閣」で開催されました。10回目記念の今回は、歴代ナイトや役員他男性20名に、はちきん60数名と大盛會。美しく咲き誇る薔薇園の散策や白亜の本館前での記念撮影。そして、駆けつけて下さった池上新校長先生やガーナ大使就任の浅井和子さんも交え、美味しいお料理を楽しみつつ、いつもにも増して華やかな一夜となりました。



夜となりました。

長縄佐知（70回生）

第10回はちきん会で池上新校長とお話しました。「東大・京大への進学数を2桁にする!」と豪語された校長はマイクがなくても「土佐高改革」を熱く語り、また「とことん付き合うぜー（酒）」という土佐っぽオーラもガンガン出ている、面白い方でした。バイタリティあふれる新校長に、これからの土佐高校が楽しみです。

竹村弘子（33回生）

目にも鮮やかな緑あふれる素晴らしい庭園。その中に今を盛りと咲き誇る薔薇の花々にも似た28回から74回の「はちきん」達が集う今回の10周年は、ひととき美しく壮観でございました。それとてもナイト役を務めて下さった殿方達の引き立て役があったこそ一段と映えたのでは、と感謝と共に付け加えさせて頂きました。

土佐高OG会 愛称 はちきん会



す。関係者、お世話下さった皆様、有難うございました。お心遣いのコサージュの花々は、それぞれのネームタグの上で、とても可愛かったです。葛岡功弥子（62回生）先輩方の温かいお誘いを受け、初めてはちきん会に参加致しました。高輪の三菱財閥の迎賓館、開東閣という素晴らしい建物に、美味しいお料理

院での研究漬けの日々を送っておりまして、ものごとろえ方が偏りがちになる恐れがあります。ですから、このような同窓会という場で異なる分野で活躍の方々とお話をするのができ、見聞を広げられるということは非常に有意義でございました。あのような晴れがましい場にでるに相応しいよう、さらに自身を磨いていきたいと思っております。今後とも宜しくお願い申し上げます。

黄川久美子（47回生）

はちきん会、初めての参加です。当日は会場の華麗さ、年代を越えたはちきんの皆様やナイト他、諸先輩との出会いに、楽しく夢見心地の一夜を過ごしました。今回の企画準備他、ご尽力下さった幹事さんには、心よりお礼申し上げます。これにすっかり味をしめ、今後「集まりあり」の情報が入れば千葉の田舎より飛んで参加します。

森岡昂子（47回生）

明治の文化史で勉強したコンドル設計の開東閣。一般には非公開の建物に足を踏み入れることができて感激し、はちきん会に参加できる幸せを味わった夜でした。

笹岡真弓（47回生）
バラの花の素晴らしさと広大な芝生に岩崎弥太郎が土佐人であることに誇りと少しの申し訳なさを覚えました。47回生としてはこれからの同期生の参加を益々呼びかけたいと思った素敵な会でした。



この会はいつでもご入会大歓迎です。

佐々木 (33) TEL&FAX 044-955-0562
E-mail hiro-art@nifty.com
上野 (51) TEL&FAX 03-3798-5310
E-mail Tenko87@aol.com
西森 (57) TEL 03-3408-1454
E-mail yui@soleil.ocn.ne.jp

★出版リーダー★

- 大橋一章 (36 回生) 隠された聖徳太子の世界 復元・幻の天寿国 日本放送出版協会 本体一九〇〇円 2002.02
- 大原健士郎 (24 回生) 【監修】 自信がっく! 森田式「こころ」の強化法 三笠書房 本体五三三円 2001.11
- 岡村甫 (32 回生) 鉄筋コンクリート工学 市ヶ谷出版社 本体二四〇〇円 2000.03
- 倉橋由美子 (29 回生) 「よもつひさらか往還」 講談社 本体二七〇〇円 2002.03
- 「天に落ちる」 講談社 本体九〇〇円 2001.10
- 「クリスマス・ラブ」 七つの物語【訳】 宝島社 本体八三八円 2001.11
- 黒鉄ヒロシ (41 回生) 清水の次郎長「上・下巻」 文芸春秋 本体一五〇四円 2002.03
- 「人間区人体町」 河出書房新社 本体二六〇〇円 2001.11
- 塩田潮 (40 回生) 大日本国史の幻 バブルの興亡とその教訓 講談社 本体三三〇〇円 2002.03
- 竹内靖雄 (29 回生) 法と正義の経済学 新潮社 本体二二〇〇円 2002.05
- 「哀しみの経済学」 日本の運命・あなたの運命 P.H.P 研究所 本体四〇〇円 2002.04
- 田島征三 (34 回生) はたけのカーニバル 童心社 本体二二〇〇円 2002.04
- 永森誠一 (42 回生) 犯罪と精神医療 クライシス・コールに込めたか 岩波書店 本体二一〇〇円 2002.01
- 野田正彰 (37 回生) 坂東真砂子 (51 回生) 善魂宿「わたし」 角川書店 本体一四〇〇円 2002.02
- 「わたくし」 文芸春秋 本体一八五七円 2001.11
- 森岡浩 (55 回生) 「名字の謎その成り立ちから日本がわかる」 新潮社 本体七二四円 2002.03

「い」からは雑誌に掲載されています

市川 忠彦 (39 回生) 視・聴覚障害学生の UNIVERSITY PERSONALITY INVENTORY 設問項目チェック率の比較・検討

筑波技術短期大学テクノレポート 8

- 岡村甫 (32 回生) 「RC 設計法」上木 特別企画 20 世紀のコンクリート工 学発展史【設計技術】 コンクリート工学 40(1) p.91-93 2002
- 柿田睦夫 (38 回生) 「創価学会でいま何が起きているか(特集 参院選・都 議選勝利をめざして 公明党・創価学会の反共攻撃を撃破 する(第2弾))」 前掲 749 p.63-95 2001
- 公文俊平 (28 回生) 「自然科学と人文科学による共創を目指し」 IT 革命の文明論的意味(焦点 IT 革命と国際社会) 国際問題 495 p.2-14 2001
- 「基調報告 電子国家の文明史的意義」 法とコンピュータ 19 p.7-15 2001
- 黒鉄ヒロシ (41 回生) 「じつは肉體様だった(特集 小泉ブームは終わったか)」 Voice 293 p.71-73 2002
- 塩田潮 (40 回生) 「Focus 政治 小泉改革は行く? 首相の本音は増税か。 それとも郵政民営化か」 週刊東洋経済 573 p.128-129 2002
- 「RCCS 政治 残った『衆院解散カード』のゆへえ」 「絶対ない」からこそ現実味増す 週刊東洋経済 574 p.118-119 2002 (ISSN: 09185752)
- 「Focus 政治 焦点の郵政民営化。強い与党内の反対。金融と景気がカギ」 週刊東洋経済 574 p.104-105 2002
- 「新世紀の風貌(40) 連立公長 笹森清一」 「雇用を守れ」 闘う労組リーダーの苦闘 プレジデント 6(6) p.12-17 2002
- 「竹下登まで容認していた悲願への執念 小泉改革のルール」 「郵政民営化」は止まらない 現代 36(4) p.192-205 2002
- 「塩田潮の永田町対談(最終回)知力・体力・創造力を兼ね備えた突破力ある政治家が国を動かす」 財界につぼん 36(3) p.12-17 2002
- 「塩田潮の永田町対談 人間に投資する『学びの社会』づくりが日本を没落から救う法」 財界につぼん 36(2) p.16-21 2002
- 「永田町対談(16) 経済政策と社会政策を峻別しつつ構造改革を」 財界につぼん 34(1) p.16-21 2002
- 「ふたつのバブル」 本 27(4) p.25-27 2002
- 「検証 小泉政権第一幕の現実」 「高支持率」失なった小泉首相と淵の決断 金融危機とデフレ深刻化に「改革一時停止」? ニューリーダー 15(3) p.57-60 2002
- 「これで『改革は着実に進展』といえるのか? 与党と官僚機構を軸にした混沌の八か月(検証 小泉政権第一幕の現実)」 ニューリーダー 5(2) p.8-12 2002
- 「Focus 政治 小泉は負けたのか、勝ったのか。支持率に賭けた小泉。シナリオない抵抗派」

週刊東洋経済 5735 p.94-95 2001
「Focus 政治 不可解な『選挙制度』での公明独走。首相も本音は『ノー』。新聞も野党も総反発」
週刊東洋経済 5728 p.88-89 2001
「Focus 政治 混迷民主党の内情。国対に熊谷を起用。狙いは政界再編」
週刊東洋経済 5722 p.128-129 2001

「Focus 政治 小泉改革政局・秋の陣。強運の小泉首相へすり寄る? 橋本派」 週刊東洋経済 5715 p.96-97 2001
「Focus 政治 参院選後の政局。息ひそめ逆襲の機うかがう反対派」 週刊東洋経済 5708 p.114-115 2001

竹内靖雄 (29 回生) 抗マリア化学物 Fehrling の構造と合成 有機合成化学協会誌 59(6) p.569-573 2001

田島征三 (34 回生) 「木の実が作る物語(総特集 絵本の世界 作家を訪ねる)」 ユリイカ 5(3臨時増) p.40-48 2002

野田正彰 (37 回生) 「させられる教育、途絶する教師(最終回)造られたマターレット」指導力不足教員」 世界 699 p.239-252 2002

「させられる教育、途絶する教師(第4回)湧き起る全体主義」 世界 698 p.181-194 2002

「させられる教育、途絶する教師(第3回)国家主義のダイナミズムに乗って」 世界 697 p.282-295 2002

「歴史における体験と記憶」 本郷 37 p.2-4 2002

「野田正彰教授に聞く『青少年の心の状況を通して』見える日本社会の病理」精神科医療の課題にも触れて(特集 精神医療) 月刊保健 723 p.27-39 2001

「特集『日の丸・君が代』という暴力 させられる教育、途絶する教師(2) 命を吸って唱われる歌」 世界 695 p.209-223 2001

「させられる教育、途絶する教師(1) 日の丸・君が代に傷つく教師たち(特集『日の丸・君が代』という暴力)」 世界 694 p.210-223 2001

坂東真砂子 (51 回生) 「対談『実感』のない世界を生きて」 本の話 8(1) p.24-31 2002

森崎 初男 (41 回生) 「経済学・経済政策 割引現在価値と投資(コンサルタント養成セミナー 経営診断ポイント講座(第8回-12回))」 企業診断 48(7) p.126-130 48(8) p.120-123 2002

「経済学・経済政策 コンサルタント養成セミナー 経営診断ポイント講座(特別編)中小企業診断士 新試験制度ガイダンス」試験科目の出題傾向と学習のポイント(1) 宮岡等 (49 回生) 企業診断 48(10) p.130-132 2001

「一般演題 医療コミュニケーション 特集 第33回日本医学教育学会大会記録」 医学教育 32(5) p.334-338 2001